



BAIEIDO-TSUSHIN

梅栄堂通信

Vol.43

'04夏・秋号



新しい
香り
を
お楽しみ
ください

一期香

いちごの香り

リフレッシュタイムは
いちごの香りにつつまれて



●標準小売価格
1,050円
(本体価格 1,000円)

真っ赤に育ったイチゴの香りをお線香にとじ込みました。甘酸っぱく、やさしいアロマがお部屋いっぱいに漂いはじめると、リラクゼーションの時が始まります。今日一日の疲れを癒す、心地よいひと時を、ゆっくりとお楽しみください。



創業三百有五年

梅栄堂

〒590-0943 堺市東之町東1丁1番4号
TEL 072(229)4545(代) FAX 072(227)1672
ホームページURL <http://www.baieido.co.jp>



大阪ミナミの心斎橋はデパート、ファッションビル、専門店などで賑わうショッピングの中心地。最近では開墾する道江や南船場などにオシャレなカフェやショップが続々オープンし、若者中心の街へとその姿を変えつつあります。そんな心斎橋にも東急ハンズ心斎橋店は、新しい生活空間をつくるグッズでいっぱい。今回はリラクゼーション用品売場にある香りのコーナーを訪問しました。



お店を訪ねて 東急ハンズ心斎橋店

香りを見つければ嬉しいが
できれば嬉しいです。

東急ハンズ心斎橋店ができて約五年、私がこのコーナーに来てまだ半年ですが、私自身は以前からお香に興味があり、自分でも焚いたりはしていました。こちらの店は、地域密着型というよりは、ビジネス街に近い平日はサラリーマ

ンの方が多いです。ここに来るまでは、お香といえば年配の方が多く思っていました。確かに年配のお客様でリピーターの方もいらっしゃるのですが、最近目に付くのが若い男性のお客様です。お話しをお伺いすると、近頃流行りの古着屋などで焚かれているお香に興味を持ち、それをきっかけに、自分でも試してみようと思われた方が多いようです。お香は初めてとおっしゃる方にはいく種類か試されて自分のお好きな香りを見つけてくれることをお勧めしています。また、こちらの売り場は、お香だけでなくリラクゼーション用品売場として香り全般の商品を扱っていますので、女性の方はアロマオイルなどにも関心が高いようです。そちらのお客様からは、アロマオイルとお香との違いを質問されたりもしま



▲お香をはじめ、いろいろな香りの商品が並ぶ売り場

すが、そんな時は「お部屋に香りが広がるのは、お香のほうが早いですよ」とお答えしています。中にはお香にたいへん詳しいお客様もいらっしゃいます。たまに私の知らない香りの成分を質問される時もありますので、そのつど調べたりしています。このように、まだまだ未熟な私ですが、これからは香りについていろいろ勉強して、自信を持ってお客様にお勧めできるようになれたらと思っています。



四季彩々

北海道美瑛町 ひまわりの 向日葵

北海道を代表する 美しい田園風景

日の出から、夕日まで刻々とその表情に変化を見せる丘のまら、それが美瑛です。いくつもの丘はきれいに耕され、それぞれの畑が織り成す絨毯模様は、青い空の色とあいまって、北の大地の素晴らしい風景を作り出しています。

四季折々に違った表情をもつ美瑛ですが、とりわけ美しいのは夏の美瑛。緑から黄色に変化する麦畑やジャガイモの白い花、ラベンダーの紫、ポピーの赤など色とりどり。まさに自然が作り出すパッチワークの世界が出現します。そして夏本番

を告げる「ヒマワリ」が咲き揃う頃には美瑛が一番華やかな季節を迎えます。今では富良野と並んで北海道を代表する観光地として、誰もが知っている美瑛ですが、その歴史は北海道の開拓とともに始まります。もともと美瑛は、アイヌ語の「ピエベツ」から生まれた言葉で、「脂ぎった川」を意味します。十勝岳から流れ出た硫黄の混じった美瑛川が、そのように見えただからだと考えられています。入植した人々は火山灰と傾斜地であり、また冬には極寒となるこの土地に根を下ろしました。そして、百年以上の厳しい歳月をかけて、人の手が加わったからこそ、こんなに優しく美しい風景が生まれたのです。たくさんの方々が連なる美瑛の中でも、ヒマワリが一番美しいのはへざるぶの

丘。その他にもテレビのCMでも見覚えのある「マイルドセブンの丘やヘケンとメリーの木」など、見所はたくさんあります。また、美瑛の美しさに注目し、いち早く世界に紹介した写真家、故前田真三氏が廃校を利用して建てた「拓真館」には、美瑛の丘の四季の写真が展示され、いつも入館者が絶えません。四季折々にほんとうに美しい美瑛ですが、今も日々努力が続けられている生活の場であることを忘れずに、マナーを守って観光したいものです。



●ヒマワリ花期 七月、八月
●アクセス JR富良野線 美瑛駅下車
●問合せ先 美瑛町観光協会
TEL0166-92-4378



第二回国際沈香
会議に参加して

梅華堂 営業本部長
中田 恭三朗

夏のベトナム中部への旅に続いて、二〇〇三年十一月中旬一週間にわたってホーチミンとチャウドックで開催された国際沈香会議に出席することとなり、再びベトナムにやってきました。

沈香は世界で稀に見る高価な天然産物であり、そのために天然林内にある沈香の伐採が続き、いまや絶滅の危機に瀕している。オランダに本部のある熱帯雨林プロジェクト財団（TRP）は、七年前から、天然林内の沈香絶滅を食い止めるよう活動を続けてきた。

具体的には、「ヨーロッパ共同体と財団への寄付金を利用し、ベトナムに沈香の植林地を造成して、人工林の沈香から樹脂



香りの小部屋

植林三年後の沈香木を伐採 ▶

が本場に Rain Forest（雨林）であることを十分実感した。全身、雨と汗でずぶ濡れになりながら、やっと麓に到着。昼食は現地の案内人らと一緒に郷土料理を楽しむ。次から次へと色々な料理が出される。山で切り倒した沈香木をさらに細かく切る。一部沈香の部分があり笑げば甘い良

沈香の大切さを実感

入る。一緒だったバプア・ニューギニアから来た女性は裸足でどんとと先へ行く。約二時間急な山を登り、植林の沈香を見学し、植林後三年を経過した沈香を伐採、樹脂の有無を確かめる。

六ヶ月前にドリルで穴を開けて、化学薬品を流し込んであるのだ。穴を開けた場所周辺は茶色くなっており、真ん中は腐って変色をしているが、その周りにうっすらと樹脂がついている。その後は輪切りにした木を山から運び出す。山道は雨でドロドロ状態。岩場も多く何回もスリッパで尻餅をつき、手の肘を擦りむく。この体験で、ここ

成分の生成を促進させる技術を開発すること」が主な活動だ。そして今回、財団と提携している越・米大学と共催で第一回国際沈香会議が開催される事となった。

ホーチミンのマジエスチックホテルに欧米・中近東・アジア・オセアニア各地域から二十四、五カ国約九十名が出席、二日間にわたって研究者の発表が続く。日本からは京都大学研究グループ、同業者一社、そして梅華堂からは私が出席。

プレゼンテーションは全て英語での発表だ。日本語の同時通訳もあるにはあったが、こちらの日本語を聞いているほうがかえって疲れる。夕食時には各国の参加者と情報交換をする。沈香の世界はまだ狭いもので、すぐに共通の話題にたどり着く。アラブの商人は、最近の若者は沈香の香りよりも花の香りや香水が好きになり、商売がやりづらいつと、日本と同じような事をいっていた。各国の森林局や大学からの研究発表は、植林沈香について話した。その後バスで苗を育てている場所へ。発芽して数ヶ月の苗が数万本温室のような所で育てられている。

京大伊東教授曰く、「今まで出席した国際会議とは異なった大変ユニークな会議である」とのことだ。

アジアで開催されるたいていの国際会議では参加者の六〇%以上は日本人で占められていることが多いが、今回の国際会議には日本人は少なく、海外の沈香の主な専門家ほとんど出席していた。この国際会議に出席できたことは、たいへん意義があったと思う。

線香メーカーも当然来るべき会社が来たという感じ。この会議を境に沈香の世界が変わるのではないか。親しくなったシンガポールやインドネシア、ヨーロッパ系の人達からも色々な沈香・白檀についての裏話を聞くことが出来て、なかなか興味深かった。

開してのものが多い。勿論民間の業者も沈香の植林に大変関心を持っている。タイのある業者は沈香の植林を考慮しており、この会議に出席して植林栽培について勉強し、何とか実現させたいと言う。そして、もし沈香が出来たら真っ先に梅華堂に品質を見て欲しいと熱弁を振るっていた。

メコンデルタへ、沈香見学の旅

三日目はバス三台に分乗し、現地調査のためチャウドックへ出発だ。チャウドックは、メコンデルタにあるカンボジアとの国境の町だ。途中一回の休憩、食事を挟んで、バスはただひたすらメコンデルタの中を四〇〇km、八時間かけて走り続けた。

次の日は今回の旅で私が一番楽しみにしていた場所、TRPの運営で沈香を植林している NUI GAN 山（標高五〇〇m）に

最終日はここからボートでアノンベンへ行く人とも別れ、再びバスで八時間をかけてホーチミンへ。前夜のパーティーで調子に乗り食べ過ぎた為か途中でバスを止めてトイレに飛び込む羽目になる。

この会議に参加して、沈香樹が今までに想像以上に乱伐され、種類によっては絶滅の危機に瀕しているのがよくわかった。また、日本文化でも沈香は大変貴重な香木で、昔から香道の世界では「馬尾蚊足」と言われるように大切に扱って来ている。我々としても今後も大切に扱って行きたいとつくづく実感させられた。今後、沈香の植林事業が成功して安定供給されることを強く願っている。終り



▲沈香樹脂が早くできるように処置された沈香木



▲栽培されている沈香の苗木



▲会議参加者のディナーパーティー ▶



世界中で愛される芳しい香り

■珈琲(コーヒー)

脳に働きかける香りの効用が話題を集めています。イスラムの名医ラーゼスが初めてコーヒーを「胃に効く薬」として記したのが、今から約千年前のこと。飲み物として歴史に登場するのは一二六〇年、イエメンの僧オマルが山で見つけた「赤い実」の煮汁を人々に与えたのが始まりと言われています。その後コーヒーは一六六〇年、オランダの商人がイエメンのモカから輸入し、はじめにヨーロッパに伝えられました。

赤道をはさんで南北二十五度の地帯はコーヒーベルトと呼ばれ、コーヒーの栽培が盛んですが、その生産地により、香りや味わいにそれぞれの個性があります。

コーヒーの木は栽培に適した場所では種を蒔いて約三年で収穫が可能です。成長するとジャスミンに似た香りの良い、白い花を咲かせます。この頃のコーヒー園では、素



晴らしい香りがあたり一面に漂うと言われています。白い花の命は二、三日と短く、受粉すると数ヵ月後には硬い緑色の実が出来ます。この実はやがてチェリールビーと呼ばれるように真っ赤に熟します。その後収穫されたコーヒーの実は、皮と果肉を取り除き、グリーンコーヒーと呼ばれる生豆の状態になります。精製された生豆は各地に輸出され、それぞれの国で焙煎されてコーヒー豆になります。

さて、コーヒーの効用としてカフェインによる覚醒作用があることは誰もが知っていますが、最近コーヒーの「香り」そのものにも様々な効用があることが話題になっていきます。杏林大学医学部の古賀良彦教授の論文によると、コーヒーの香りは、リラクゼーション効果を出るアルファ波を出現させる効果を持つという他に、右脳の血流量を増やし、脳の働きを活性化するという、二つの働きを持っているという実験結果が発表されています。

梅栄堂のコーヒーの香りのお線香「残香飛」は、発売以来ご好評いただいておりますが、飲んでよし、香ってよし、のコーヒータ임을ゆっくりと楽しみたいものです。

●話題

F M放送 NORTH WAVE

ACTIVE LINE

同放送ではコーヒールンバのメロディーが流れた後、今爆発的な人気が出ているとして、話題の線香「残香飛」について中田社長がインタビューを受け、「コーヒー好きの故人にコーヒーを供える人が多い」と言うことをヒントに始まった「残香飛」の誕生のエピソードや、第二弾の商品構想などについての質問に答えました。

MBSニュースワイド・アングラ情報ピリカラのコーナーでは、創業三十四十五年の伝統がある梅栄堂が、斬新な線香「残香飛」を発売するに至るまでの、社内の賛否両論やヒットの様子、またコーヒーの香りの薬効などについてお話を頂きました。

開発力、営業力の強化を図りたい」といった方針が中田社長の言葉で紹介されました。多岐な雑誌に登場する和の生活マガジン「SAKURA」に

文化放送「一期香」



「吉田照美のやる気MAN」では最先端情報として梅栄堂の「二期香」が取り上げられ、「甘くソフトなイチゴの香り、煙もひかえめ、フルーツ好きには特別にお勧め！」と紹介されました。

朝日新聞「ブームの卵」

朝日新聞関東版「東京マリオンの情報コーナー」「ブームの卵」では、現在ブレイク中の商品として「二期香」が掲載されました。

優良企業の人事戦略

朝日新聞西武版では、「関西の優良有望企業の人事戦略」と題して特集。事業戦略としては「伝統を守りつつ、更なる飛躍を目指す」、また人事戦略としては「様々な年齢層に需要を広げるために、

ックコミック「福貴なび」(NATSU)「じばしんニュース」など多方面の雑誌で、梅栄堂本社や各商品についてのご紹介をいただきました。

●新商品紹介

香りのハラフティを先様に。

■新贈答用詰合せ 紙箱

いよいよ夏本番の季節になってまいりました。これからの季節にふさわしい贈答用セットをご案内させて頂きます。ひとつは、さわやかな香りのお線香を集めました詰合せ。もうひとつは話題のお線香「残香飛」を中心に詰め合わせましたセットでございます。

お盆をはじめ、先様へのお届け物としてぜひご利用いただきますよう、よろしくお願いたします。

- 残香飛
- ラベンダーさわやか
- ローズさわやか
- ローズさわやか
- 好文木



●標準小売価格 2,100円(本体価格 2,000円)